



この度、京浜グループガバナー補佐を拜命戴きました。宜しく願い申し上げます。  
現在、あらゆる会議、研修会に出席させて戴いております。

あるロータリアンからロータリーに対する有り方が疑問視されている様に聞きます。数年前から導入されたCLPの対応は、地区組織の簡素化はクラブの為の構成であり、クラブの各委員長として活動する枠が狭まれている、各委員長が経験する事がロータリアンの育成に寄与するのではないかと。しかし、現在のロータリーを考えると組織、財政面や会員減少などを考慮し、クラブの活性化を進める事が大切です。

ロータリーの奉仕活動は従来単年度の方式が多い様に思われ、短時間で重厚な奉仕活動が出来るだろうか。CLPの導入で長期的な目標を経て、数年継続した奉仕活動をすることが重要であり導入の意義が有るように思います。クラブの運営、管理などを考慮し、理解を深めることのようにです。

クラブと地区の関係においても、従来の奉仕活動は地区の要請や指示が基での奉仕活動のように思いますが、地区の要請、指示だからと進める事が多く、そうではなく会員、クラブが独自性、自主性の基での奉仕活動をして、それを地区に提案することが大切で、そうである事からクラブの有り方が重要である。クラブから地区へと連携した奉仕が尚大切です。

ガバナー補佐の有り方は、グループのクラブの皆様と共に考え、ロータリー活動を共に歩み、意義のある年度を目指す所存です。



ロータリーは創立してから既に104年が経ちました。その間多くの先輩の方々のご尽力のお陰で経済不況の時も紛争が起きた時も、これを乗り越えて奉仕活動を続け広く社会から受け入れられ、組織も大きく発展して参りました。昨年米国で起きた金融破綻は世界的な経済不況へと拡大し、特に自動車産業、電気産業、関連した産業は大きな打撃を受けました。

京浜グループは伝統ある京浜工業地帯を地盤にしておりますので、会員の方々は物作りの業種の方が多く、このため経済不況の影響を受けて会員数の減少が目立ち、クラブの運営に関し経済的にもまた奉仕活動を行うにしても、まず会員増強が絶対必要な状態となっております。昨年 李 東建RI会長はご就任早々来日され会員増強について繰り返し強調されました。京浜グループ「8クラブ」には引き続き会員増強を強くお願い申し上げたいと存じます。

1997年(平成9年)地区リーダーシップ・プラン(DLP)が導入され、さらに4年前からクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)の導入によりクラブはロータリー網領を實踐し易い組織に出来ることとなりました。ロータリーの活動についてはクラブが主体となって実行し、地区はこれを支援することとなりました。

京浜グループ「8クラブ」の奉仕活動としては、前年度 舟木ガバナー補佐と東京大井RCの坂本会長が中心になって、MICRONESIA連邦のCHUUK諸島(旧トラック島)への給水活動にグループ全体で協力し多大な成果を上げました。本年度は久邇ガバナー、市川研修リーダーはじめ各研修リーダー、上篠地区幹事はじめ地区委員の方々のご指導を護り、グループ内の各クラブのご意見に従い、経済不況の折ですが実りある奉仕活動に向かって皆様と頑張りたいと存じます。グループ内の連絡を密にするため定例会長会を設け意思の疎通を図りたいと存じます。

また京浜グループ全体14クラブの連絡を図るため、高瀬ガバナー補佐と連絡を密にし、合同の連絡会議を設けたいと存じます。

世界的な不況の時代でございますが、国際ロータリー第2750地区の益々のご繁栄と、京浜グループ「8クラブ」の尚一層のご発展と会員皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

